

## ADB、アジア太平洋地域と中南米・カリブ海地域の 経済促進のため米州開発銀行と連携強化



【東京、2009年11月9日】本日、東京において、アジア開発銀行(ADB)の黒田東彦<sup>はるひこ</sup>総裁と米州開発銀行(IDB)のルイス・アルベルト・モレノ総裁は、貿易金融や地域協力、気候変動といったさまざまな分野において両機関が協働関係を深めるパートナーシップ協定に調印した。

両総裁はまた、持続的で低炭素型の交通システムを推進するプログラムやプロジェクトをそれぞれの機関の開発途上加盟国において共同支援する覚書(MoU)にも調印を行った。

調印式で黒田総裁は、「世界経済秩序が徐々に新たな体制へと移行していくなか、二つの地域が協力関係を強化し、貿易・投資・金融の障壁を減らすとともに、金融システムの安定など地域や世界全体の公共財をともに促進していくことは重要だ」と語った。

IDBのモレノ総裁は、「中南米・カリブ地域にとって、アジア太平洋地域との連携構築には強い関心がある。IDBの加盟各国がそうした目的を達成する上で、ADBとの関係強化は素晴らしい方途だ」としている。

今週後半にシンガポールで開催される第17回APEC首脳会議でも、環太平洋の21の加盟国首脳が経済や貿易について討議する予定となっている。

中南米・カリブ海とアジア太平洋の二つの地域には、経済成長や開発面では多大な潜在力がありながら、世界不況や急激な資本流出入といった外的ショックに対し脆弱であるとの点で共通しているほか、貧困や格差、さまざまな環境問題といった課題もそれぞれ抱えている。

また、世界経済の4分の1相当の規模を有する両地域が経済関係を拡大すれば、多大な恩恵が期待される。両地域間の貿易は2008年に3,000億ドルを超えたが、経済関係は比較的弱く、分野も広範とはいえない。

ADBとIDBは本年6月にも貿易金融プログラムに合意、これにより両機関は計100以上の金融機関に対し相互にアクセスできるようになったが、今回の調印によって、伝統ある両機関の連携がさらに深まることが期待される。

### お問い合わせ先

駐日代表事務所

広報官：望月 章子

T: +81 3 3504-3441/3160

E-mail: [amochizuki@adb.org](mailto:amochizuki@adb.org)

ADBのニュースリリース(和文)は、下記URLにても  
ご覧いただけます。

<http://www.adb.org/JRO/doc-news.asp>